

第25回東伏見スポーツサイエンス研究会

グローバルCOEプログラム「アクティブ・ライフを創出するスポーツ科学」

日時 2014年1月22日(水) 17:00より

場所 早稲田大学79号館(STEP22)303号室

演題

＜オリンピックの遺産＞の社会学：
長野オリンピックとその後の10年

石坂 友司 先生(奈良女子大学)

松林 秀樹先生(関東学園大学)

高尾 将幸先生(東京理科大学)

2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の開催が決定した。大会の開催が都市に何をもたらすのか、これまでのオリンピック開催を振り返って検討する必要性が生じている。夏と冬の大会の違いこそあれ、1998年に開催された長野オリンピックは日本における直近の事例であり、開催後15年を経過した地域とその変容について考える格好の事例である。本報告はスポーツ社会学者と都市社会学者のフィールドワークによる共同研究の成果(石坂友司・松林秀樹編、2013、『＜オリンピックの遺産＞の社会学』青弓社)をもとに考えていく。これまでほとんど省みられることのなかった大会開催後の地域に焦点を当てるとともに、近年のスポーツ・メガイベントの隆盛とその意味、オリンピックがつくりだした遺産(レガシー)についても批判的検討を加えていきたい。熱狂的雰囲気で開催された大会も、その熱は冷め、現在では地域の再活性化に向けた取り組みがオリンピックの遺産を活用しながら始められている。それら地域に残された正負の遺産と課題、現在の取り組みについて社会的に明らかにすることが目的である。当日はオリンピックとメガイベント、交通、レガシーをキーワードに、白馬村、軽井沢町・御代田町の事例を紹介する。



早稲田大学 スポーツ科学学術院
Faculty of Sport Sciences, Waseda University

世話人: 正木宏明・紙上敬太
早稲田大学 スポーツ科学学術院
E-mail: masaki@waseda.jp